

2015 年度事業報告

1. 会員状況

2016 年 4 月 1 日現在、正会員 A212 社、正会員 B164 社、正会員 C2,883 社 計 3,259 社となった。

2. 会員活動

フォーラム・研究会・研究プロジェクトの充実、計画的な運営を図り、活動を実施した。

a. 会員交流（★：2015 年度新設）

(a) フォーラム

年間開催スケジュールとテーマ設定等運営方法を工夫し、より活発な活動を推進した。

IT 部門経営フォーラムおよび IT グループ会社経営フォーラムは、それぞれ 2 月に初の合同開催を実施し、ワールドカフェスタイルで意見交換を行った。

- ・CIO エグゼクティブフォーラム★(東京 1 グループ)
- ・IT 企業トップフォーラム(東京 3 グループ+関西 1 グループ)
- ・IT 部門経営フォーラム(東京 5 グループ+関西 1 グループ)
- ・IT グループ会社経営フォーラム(東京 3 グループ+関西 1 グループ)
- ・グローバルフォーラム(シンガポール 1 グループ)

(b) テーマ研究会

下記の 10 テーマの研究会を実施、472 名の方々が活動した。7 月にプラザヴェルデふじのくに千本松フォーラム(沼津)で 3 グループにわかれての合宿を行うなど、活発に活動した。それぞれ研究成果をとりまとめ、研究成果報告会を 2016 年 4 月 21 日にソラシティカンファレンス(お茶の水)で開催した。

- ・データマネジメント研究会
- ・データサイエンス研究会★
- ・IT インフラ研究会
- ・IT サービスマネジメント研究会
- ・企業リスクマネジメント研究会
- ・ビジネスプロセス研究会
- ・IT ポートフォリオ研究会★
- ・IT 人材キャリア形成研究会
- ・組織力強化研究会
- ・IT 戦略研究会

(c) ケース型研究会

研究者や実務家を招いた講演とディスカッションを実施する研究会として、40 名の方々が活動した。

- ・ビジネスモデル研究会

(d) 研究プロジェクト

情報の蓄積と発信を目指し、下記の研究プロジェクトを実施した。

- ・システム開発・保守 QCD 向上プロジェクト
- ・IT 運用コスト研究プロジェクト(ソフトウェア・メトリックス調査とあわせて、運用コストに関する調査を実施)

(e) アドバンスト研究会

2 つの研究会について、個別グループでの設立申請を受け、政策企画委員会の審査・承認を経て活動した。

- ・情報共有研究会
- ・サービスサイエンス研究プロジェクト

(f) CIO 経営ディスカッション★

CIO の方々の高度な知見を、会員企業、ひいては、広く社会に対して発信し、日本企業の IT 経営力向上に貢献していくことを目指し、「CIO 経営ディスカッション」を 2016 年 2 月にスタートし、10 名の CIO にご参加いただいている。

(g) ワークスタイル改革コミュニティ★

9月よりワークスタイル改革コミュニティを立上げ、IT部門のみならず、人事部、総務部など他部門の方にもご参加いただき、ワークスタイル改革推進について検討している。

(h) 会員研究会 (JUAS アカデミー)

ITに関する最新技術、関連施策、業界や市場の動き、海外動向、経営に適用し得る考え方等、時宜に即したテーマを選び、単発の会員限定の研究会として、8回開催した(うちマイナンバー制度について3回開催、350名参加)。

(i) 関西支部

前述のIT企業トップフォーラム関西、IT部門経営フォーラム関西、ITグループ会社経営フォーラム関西、PARK(The place of advanced relationship in Kansai ※ミドルマネジメント向け2グループ)を開催するとともに、関西方面の会員企業を対象とした「関西アカデミー」を開催し、PARK活動報告の他、講演会、交流会を開催した。

b. セキュリティセンター<プライバシーマーク審査業務>

プライバシーマーク指定審査機関として、会員企業を対象に申請を受付し、審査を行っている。申請数は年々増加し、月間平均約120件、年度末では約1,600件となった。月2回の審査員会議での講義・議論や審査グループ長による個別指導等を通じて、審査員のレベルアップを図り、審査品質を向上に努めるとともに、審査員60名強の体制を整備し、審査体制の拡充に努めた。

また、会員向けのPマークカンファレンスを2015年11月11日(水)に開催し、約400名の参加を得た。

8月には会員ポータルサイトをリニューアルし、提供する情報の充実化を図った。あわせて、四半期に一度『JUASセキュリティセンター会報』として情報提供を実施した。

3. 教育研修事業

a. オープンセミナー

2015年度のセミナー開催は228本と、前年度を超える本数を実施し、参加人数は3,724名となった。

また、複数日日程からなる情報交換や他流試合を中心に据えたプログラムを充足させ、内容の拡充に努めた。

b. コース型研修

中堅層を対象にした複数日の開催で、情報交換や他流試合を主眼に据えたコース型研修として、次の3つのコースを実施した。

- ・サービス創造塾
- ・ファクトベースで学ぶITマネジメント力アップ集中コース
- ・業務オーナーによる最適な業務プロセスを実現する方法

c. 新人・配転者育成プログラム

新人・配転者育成プログラムは、2015年度で6期を迎え7月に13社24名が受講、累積受講生はのべ80社164名となった。「プロジェクトマネジメント」カリキュラムをチーム演習中心に大幅に改訂し、より研修効果を高めた。また、コース全体をつなげて適宜受講生をフォローするトータルアドバイザーの常駐、講義テキストの事前配布を実施するなど、運営体制としても強化を図った。

d. 教育研修の受託・講師の派遣 (オーダーメイド研修)

要望に応じて企画提案し講師を派遣する方式のオーダーメイド研修は、2015年度は定例テーマとして開催している「ソフトウェア文章化作法」「プロジェクト管理」コースに加え、「保守開発」「品質管理」「要求仕様」「業務設計」のテーマの研修の依頼が増加した。また、企業内のIT部門配転者向け研修や中堅層研修など、複数の研修を組み合わせ、コース(数日～数か月)として、講義、実践、フォローアップを開催するケースも増えている。

e. 普及出版 (報告書・マニュアル・教材)

出版物は、現在24種類を配布・販売している。毎年更新している「ソフトウェア・メトリクス調査」および「企業IT動向調査」などが定番となっている。

f. JUAS ラボ

2015 年度は「トレンドラボ」として、IT に関する最新技術、業界や市場の動き、IT と経営のかかわりなどについて、6 回開催した。

4. 普及推進事業

a. JUAS スクエア 2015

2015 年 9 月 3 日(木)・4 日(金)の 2 日間、ハイアットリージェンシー東京にて、双方向型の情報発信・情報収集ができるユーザーカンファレンス「JUAS スクエア 2015～ブレイクスルー！新たなステージへ踏みだそう！」を開催した。総登録数 904 名、のべ参加者数は 1,198 名となり、イベント全般に対するアンケートの総合評価点も例年より高まった。

b. JUAS FUTURE ASPECT2016

2016 年 1 月 29 日(金)「JUAS FUTURE ASPECT2016」を「ワクワクする未来へ～さがそう！私のハピネス！」のテーマで目黒雅叙園にて開催した。開催 4 回目となった今年度は 729 名の参加があった。新たな取り組みとして大学院生の研究発表に対して会員企業メンバーがディスカッションするセッション、大学院生を交えたワールドカフェ等などを実施した。

c. イノベーション経営カレッジ

2015 年度(13 期)よりプログラムを一新し、「先進企業のケーススタディ」に加えて、「これからのイノベーションリーダーに必要な考え方とスキルの講演、ワークショップ」「変革プランの作成と発表」を盛り込んだ 9 日間の合宿研修を実施した。13 期は 14 名(13 社)が参加、修了者のべ数は 193 名となった。また中堅向けの「IMCJ D3(Digital, Design, Data)」として、より「ビジネスへの IT(デジタル技術)活用の実践」に重きを置いたコースをトライアルとして実施した。

d. グローバルクリエイティブフォーラム

2013 年度から、東京大学大学院情報理工学研究所との共同企画にて、海外の大学・企業への視察を行う「グローバルクリエイティブフォーラム」を実施している。2015 年度は「デジタルイノベーションのビッグウェーブ～リアルとデジタルの融合」をテーマに、米国バイエリアへの視察を実施し、スタンフォード大学や現地の日系企業、新規ビジネスを興しているスタートアップ企業等を訪問した。

5. 調査研究

a. 攻めの IT 投資評価指標等策定事業★(経済産業省委託事業)

「攻めの IT 投資」を増加させ、日本企業の競争力強化につなげることを目的に各種環境整備を行った。主な実施内容は次の通りである。

- ・「攻めの IT 投資評価指標」の改訂(上場企業対象)
- ・「攻めの IT 活用指針」及び「攻めの IT 導入ガイドブック」の改訂(中小企業対象)
- ・「IT-IR ガイドライン」の策定及び普及啓発イベントの実施
- ・「攻めの IT 経営銘柄」及び「攻めの IT 経営中小企業百選」の普及イベントの実施
- ・IT 活用に積極的に取り組む企業の選定

※経済産業省の「IT ベンチャー企業に対する需要喚起による好循環拡大に向けた対策事業」の一部を受託

b. 先端課題に対応したイノベーション促進のための人材育成・確保モデル事業★(経済産業省委託事業)

市場活性化のためのデータ活用人材、IT ベンチャー企業等の調達を促進する政府等 IT 人材のスキル指標検討を行い、革新的な IT ベンチャーを促進する IT 人材育成を図ることを目的に、以下の 2 つの調査を実施した。

- ① データを活用した改善・新規事業創造ができる人材のスキル
- ② IT 調達をマネジメントできる人材のスキル

※経済産業省の「先端課題に対応したベンチャー事業化支援等事業(IT ベンチャー等によるイノベーション促進のための人材育成・確保モデル事業」の一部を受託

c. ソフトウェア・メトリックス調査

ソフトウェア開発・保守・運用に関する、品質、価格、工期等について、2004 年度より継続的に調査を実施し、開発計画、進捗状況、開発結果に使える評価指標となるデータを収集・分析を行っている。今年度は従来通り、システム開発・保守に関する全般的な調査を実施した。またIT運用コスト研究プロジェクトの活動と連動した運用に関する調査も実施した。

6. 企業 IT 動向調査（公益目的支出計画実施事業）

企業の IT 投資、IT 導入状況、IT 活用の実態、組織・体制等、動向全般について、幅広く俯瞰的な調査を実施するとともに、ユーザー企業における重要課題を、様々な角度から深く掘り下げ、解決に向けた指針を提言することを目的に「企業IT動向調査」を実施している。

2015 年度は重点テーマを「攻めと守り」の両立への期待と課題として調査を実施した。2012 年度より公益目的支出計画の実施事業として行っている。

以上